

社会連携センター
Center for Community Relations

Annual Report 2014



平成27年3月
国立大学法人 電気通信大学

Annual Report 2014 目次

ご挨拶	2
社会連携関連カレンダー	3
青少年の育成	
○ 調布少年少女発明クラブ／電通大子ども工作教室	6
○ ながれと遊ぼうコンテスト	13
○ 中学生職場体験受け入れ事業	15
○ おもちやの病院	16
○ 学生サークル地域貢献活動	17
習得・知得	
○ 公開講座	19
○ 調布市国際交流協会日本語ボランティア講座	22
○ いなぎ IC カレッジ・プロフェッサー講座	23
○ 三鷹ネットワーク大学との連携	24
協働活動	
○ キャンパス美化活動	27
○ 花植え活動	28
ボランティア活動支援	
○ 活動支援事業	30
○ ボランティア依頼リスト	32
トピックス	
○ 調布特別支援学校との連携	35
○ 渋谷区教育委員会との連携	40
○ 西原小学校サイエンスパートナーシッププログラム	41
○ 調布市多方面セクターとの連携・協力	45
○ 調布市との相互友好協力協定締結	
大学 10 周年記念事業の開催	50

ご挨拶

平成 26 年度から社会連携センターの体制が大きく変わりました。林（前）センター長の退任を受けて、宮寄がセンター長を引き継ぐとともに、社会連携企画室・地域学習推進室・青少年科学教育推進室・ボランティア推進室の 4 室体制を確立して、より組織的な社会連携活動の展開を目指しております。

社会連携企画室（水戸室長）では、本学の持つ ICT 技術を活用して地域の安心・安全向上に貢献しています。また、地域社会への窓口として、様々な社会連携活動についてのご提案をお待ちしております。地域学習推進室（宮寄室長兼任）では、公開講座や三鷹ネットワーク大学、そしていなぎ IC カレッジなどの生涯教育への協力を推進しています。青少年科学教育推進室（奥野室長）では、発明クラブや工作教室をはじめとして、調布市や渋谷区の初中等教育への支援やおもちゃの病院などの活動を続けております。ボランティア推進室（佐々木室長）では、学生ボランティア登録システムを用いてボランティア活動を支援し、その活性化を促しています。また、キャンパス近辺の美化活動などの地域社会への貢献を行っております。個々の活動につきましては、以下に詳しく報告されておりますので、ご参考にしていただければと思います。

今世紀にはいつて、自然環境や国内外の社会情勢は、ますます厳しくなっていますが、地域社会と本学のコミュニケーションを密接にすることで、よりしなやかで実りある社会貢献に務めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成 27 年 3 月

社会連携センター長
知能機械工学科教授 宮寄 武

2014年度 社会連携活動カレンダー

※公開講座の「地域産業振興講座」以外は、本文で取り上げている項目です。

月日	社会連携活動(主に理科分野)	公開講座	関連事項
4月	12 土 ●調布少年少女発明クラブ「開講式」		
	19 土		●おもちゃの病院
	26 土 ●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「プロペラ飛行機の制作」		
5月	10 土 ●調布少年少女発明クラブ「ステアリングカーの製作 その1」		
	17 土		●おもちゃの病院
	21 水	●地域産業振興講座	
	24 土 ●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「万華鏡の制作」		
6月	7 土	●第10回 調布身の丈起業塾(その1)	
	11 水	●地域産業振興講座	
	14 土 ●調布少年少女発明クラブ「ステアリングカーの製作 その2」	●第10回 調布身の丈起業塾(その2)	
	19 木	●ジャグリング入門～頭を鍛える軽運動、やり方と楽しみ方	
	21 土		●おもちゃの病院
	26 木	●ジャグリング入門～頭を鍛える軽運動、やり方と楽しみ方	
	28 土 ●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「ヘロンの噴水の制作」		
7月	3 木	●ジャグリング入門～頭を鍛える軽運動、やり方と楽しみ方 ●日本語ボランティア入門講座	
	5 土	●第9回 ボランティア養成講座～IT技術を使って子供たちを災害から守るには！～	
	10 木	●日本語ボランティア入門講座	
	12 土 ●調布少年少女発明クラブ「ステアリングカーの製作 その3」		
	17 木	●日本語ボランティア入門講座	
	19 土		●おもちゃの病院
	24 木	●日本語ボランティア入門講座	
	26 土 ●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「ペットボトルロケットの制作」		
	29 火	●子どもと学ぶ科学実験講座～最先端は身近にあった～	
	31 木	●日本語ボランティア入門講座	
8月	7 木	●日本語ボランティア入門講座	
	9 土	●女性のための起業講座	
	16 土		●おもちゃの病院
	21 木	●日本語ボランティア入門講座	
	22 金	●子どもと学ぶ科学実験講座～最先端は身近にあった～	
	28 木	●日本語ボランティア養成講座	
	30 土 ●調布少年少女発明クラブ「ステアリングカーの製作 その4」		
9月	4 木	●日本語ボランティア入門講座	
	10 水	●地域産業振興講座	
	11 木	●日本語ボランティア入門講座	
	13 土 ●調布少年少女発明クラブ「光オルゴール(1)」		
	18 木	●日本語ボランティア入門講座	
	20 土		●おもちゃの病院
	25 木	●日本語ボランティア入門講座	
	27 土 ●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「ゲルマニウムラジオの制作」		

2014年度 社会連携活動カレンダー

※公開講座の「地域産業振興講座」以外は、本文で取り上げている項目です。

月日			社会連携活動(主に理科分野)	公開講座	関連事項
10月	4	土		●第11回 調布身の丈起業塾(その1) ●第10回 ボランティア養成講座～特別支援学校の子ども達とのふれあいと支援～	
	11	土	●調布少年少女発明クラブ「光オルゴール(2)」	●第11回 調布身の丈起業塾(その2)	●おもちゃの病院
	25	土	●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「ヘリコプターの制作」	●UECコミュニケーションミュージアム特別公開講座「地形の古文書講座(第1回)」	
11月	8	土	●調布少年少女発明クラブ「光オルゴール(3)」		●おもちゃの病院
	22	土	●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「紙飛行機の制作～流れと遊ぶコンテスト」		
	29	土		●UECコミュニケーションミュージアム特別公開講座「地形の古文書講座(第2回)」	
12月	6	土	●調布少年少女発明クラブ「光オルゴール(4)」		
	10	水		●地域産業振興講座	
	13	土	●調布少年少女発明クラブ「光オルゴール(5)」		
	20	土	●調布少年少女発明クラブ「光オルゴール(6)」	●UECコミュニケーションミュージアム特別公開講座「地形の古文書講座(第3回)」	●おもちゃの病院
1月	10	土	●調布少年少女発明クラブ「光オルゴール発表会」		
	21	水		●地域産業振興講座	
	24	土	●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「静電気と遊ぶ」	●UECコミュニケーションミュージアム特別公開講座「地形の古文書講座(第4回)」	
2月	7	土		●第12回 調布身の丈起業塾(その1)	
	14	土		●第12回 調布身の丈起業塾(その2) ●UECコミュニケーションミュージアム特別公開講座「地形の古文書講座(第5回)」	
	18	水		●地域産業振興講座	
	21	土			●おもちゃの病院
	28	土	●調布少年少女発明クラブ「修了式」		
3月	7	土	●調布少年少女発明クラブ・子供工作教室「エア・クッション・ビークルの制作」		
	18	水		●地域産業振興講座	
	21	土			●おもちゃの病院
	28	土			

● 青少年の育成

1. 調布市少年少女発明クラブ

/電通大子ども工作教室

2. ながれと遊ぼうコンテスト

3. 中学生職場体験受け入れ事業

4. おもちやの病院

5. 学生サークル地域貢献活動

調布少年少女発明クラブ（電通大こども発明クラブ）

および

電通大子ども工作教室

「調布少年少女発明クラブ」は、公益社団法人 発明協会の支援のもと、調布市、調布市教育委員会、調布市商工会の後援を得て、平成 16 年 10 月に開設しました。当クラブでは、創作・工作活動を通じて、少年少女の皆さんが本来持っている創造性ができるだけ発揮できるよう心がけ、楽しみながら活動に取り組み、作品を完成する喜びを体得できるよう、活動を行っています。定員 40 名の小学校 3～6 年生の会員が、約 20 人の指導員（電気通信大学 地域連携活動推進員）とともに 1 年間を通して計 22 回、活動しています。指導員は電通大卒業生の技術者 O B が中心で、目黒会（電通大同窓会）の強力なサポートをいただいています。

「子ども工作教室」は、「子供のうちに理科に興味を持たせるため、動いたり、音が出たり、光ったりするものを作る」をモットーに、小学生の皆さんが楽しみながら作品を完成させる喜びを味わってもらうことを目的としています。発明クラブ 22 回のうちの 9 回は、その都度応募してくれた 20 人を加えて計 60 人で工作を楽しんでいます。

発明クラブ修了者の約半数は、希望して特別研究生クラスに入ります（1 年目のクラスを本科と呼ぶことがあります）。鉄道模型で遊ぶことやレゴロボットを組み立てるコース、および、ワンチップマイコン PIC を活用するコースや電気木工工作のコースがあります。約 5 人の指導員とともに、子どもたちの自主性をより発揮してもらいながら活動しています。

本発明クラブは、今年発足 10 周年を迎えました。10 月 25 日に子どもたちがヘリコプターを作ったあとコミュニケーション・パークでみなで飛ばしている最中に、本学特別栄誉教授の John Hall 先生（2005 年ノーベル物理学賞、アメリカ・コロラド大学）および Lindy 夫人が見学に訪れてくださいました。お二人はアメリカで子ども向けの科学教室を開いておられます。発明クラブの子どもたちとも和やかに交流をしてくださいました。子どもが楽しんで活動している様子や、何ヶ月もかけて工作物を完成させる発明クラブの取り組みに、高い評価をしてくださいました。

Hall 先生と
子どもたち



11月30日には、調布少年少女発明クラブ10周年特別企画 ～みんなどうしてる！？～を開催いたしました。初期の頃の会員の修了生が、大学生の年齢になってきました。彼らが中心となって、同窓会のようなこの10周年の催しを企画して開催してくれました。約50人の発明クラブ修了生、現会員、指導員などが集まり、出席できない人たちからも多数のメッセージが届きました。電通大生となった修了生も、女性を含めて複数人にのぼっています。

発明クラブ・工作教室の活動は、ホームページで紹介しています (<http://www.ccr.uec.ac.jp/activity/club/index.html>)。地域のPTAや児童館、学童クラブなどからの要請を受け、12回出前講座にもでかけました。理科および科学のすそのからの振興のため、これからも調布市および近隣にねざした電通大発明クラブでありたいと思っています。

表1 平成26年度の活動回数と人数（一部は概数）

		年間活動回数	参加した子どもたち	指導員
発明クラブ		22回	40人	20人
工作教室		上記のうち9回	上記に加えて毎回20人	
特別研究生 (発明クラブ 2年目以降)	マイコン	20回	16人	5人
	マイコン2年目	21回	10人	
	工作	23回	6人	
	鉄道模型	10回	5人	
	レゴロボット	10回	5人	
出前講座		12回	20～40人程度のことが多い。最大127人。	上記 全員

2014年度 発明クラブ/工作教室 活動報告(第10期)

当期 回数	通算 回数	日付	形態	内容
1	211	2014/4/12	発明クラブ	発明クラブ開講式
2	212	2014/4/26	工作教室/発明クラブ合同	プロペラ飛行機を作ろう
3	213	2014/5/10	発明クラブ	ステアリングカーを作ろう(1)
4	214	2014/5/24	工作教室/発明クラブ合同	回転万華鏡を作ろう
5	215	2014/6/14	発明クラブ	ステアリングカーを作ろう(2)
extra		2014/6/21	出前講座(杉並区立第一小学校)	ペットボトルロケットを作って飛ばそう
6	216	2014/6/28	工作教室/発明クラブ合同	ヘロンの噴水を作ろう
7	217	2014/7/12	発明クラブ	ステアリングカーを作ろう(3)
extra		2014/7/22	出前講座(杉並区立第七小学校)	F15飛行機をとばそう
8	218	2014/7/26	工作教室/発明クラブ合同	ペットボトルロケットを作って飛ばそう
extra		2014/7/31	出前講座(和光鶴川小学校)	エアーロケットをとばそう
extra		2014/8/8	調布市「夏休み親子スクール」	エアーロケットをとばそう
extra		2014/8/25	出前講座(調布市立第二小学校)	ストローヘリを飛ばそう(参加127人)
extra		2014/8/28	出前講座(ポコポコホッピング富士見町)	宙返りグライダー
9	219	2014/8/30	発明クラブ	ステアリングカーを作ろう(4) 走行競技会
10	220	2014/9/13	発明クラブ	光オルゴールを作ろう(1)
11	221	2014/9/27	工作教室/発明クラブ合同	電池のいらないラジオを作ろう
12	222	2014/10/11	発明クラブ	光オルゴールを作ろう(2)
extra		2014/10/18	出前講座(UECホームガミングデー)	作品展示。ストローヘリ、エアーロケット
13	223	2014/10/25	工作教室/発明クラブ合同	ヘリコプターを作ろう
14	224	2014/11/8	発明クラブ	光オルゴールを作ろう(3)
extra		2014/11/21~23	調布祭企画	作品展示 発明クラブ小学生も説明員
15	225	2014/11/22	流体力学会/工作教室/発明クラブ合同	流れと遊ぼうコンテスト(調布市立第一小学校)
extra		2014/11/29	出前講座(調布市立染地小学校)	エアーロケットをとばそう
16	226	2014/12/6	発明クラブ	光オルゴールを作ろう(4)
17	227	2014/12/13	発明クラブ	光オルゴールを作ろう(5)
18	228	2014/12/20	発明クラブ	光オルゴールを作ろう(6)
19	229	2015/1/10	発明クラブ	光オルゴールを作ろう(7) 演奏発表会
20	230	2015/1/24	工作教室/発明クラブ合同	静電気と遊ぼう
extra		2015/1/31	出前講座(品川区立第四日野小学校)	簡単モータを作って、電気と磁気的作用を学ぼう
extra		2015/2/25	出前講座(調布市富士見児童館)	プロペラ飛行機を作って飛ばそう
21	231	2015/3/7	工作教室/発明クラブ合同	エアークッション艇を作ろう
extra		2015/3/24	出前講座(調布市富士見児童館)	プロペラ飛行機を作って飛ばそう 追加開催
22	232	2015/3/28	発明クラブ	修了式

第1回(10期生)、通算第211回

2014年4月12日(土) 13:00-15:00

会場

電気通信大学 創立80周年記念会館3階

内容

発明クラブ:開講式

調布少年少女発明クラブの新しい会員として、小学校3年生から6年生の42人とその保護者の方々を迎えて開校式を行った。企画運営委員をつとめてくださっている調布市生涯学習交流推進課、調布市教育委員会、調布市商工会、目黒会の方々にもご臨席いただいた。

開校式の後は第1回の活動を行った。発明クラブの活動を楽しんでいる仲間が日本中にいることなどが奥野会長から紹介された。

[特別研究生クラス]2年目以降の会員のクラスも、4月12日(土)や4月20日(日)などに初回の活動を開始した。



第2回(10期生)、通算第212回

2014年4月26日(土) 13:30-16:00

会場

電気通信大学 創立80周年記念会館3階および講堂前広場

内容

工作教室:プロペラ飛行機を作って飛ばそう

原田先生の揚力(ようりょく)などについての話の後、鈴木先生の演示実験があった。紙の翼の上にドライヤーの風を送ると翼が持ち上がった。その後の工作では、翼の取り付け位置などを調整しながらプロペラ飛行機を完成させた。青天のもと皆が自分の作った飛行機を存分に飛ばした。記録会での最長時間は13秒13で、以下12秒78、11秒67であった。

[特別研究生クラス]1階のマイコンコースはボードの製作を開始した。2階のNゲージとレゴロボットも活動をはじめている。



第3回(10期生)、通算第213回

2014年5月10日(土) 13:00-16:00

会場

電気通信大学 創立80周年記念会館3階

内容

発明クラブ:ステアリングカーの製作 その1

有線のリモコンで自由に操作できる三輪の車を全4回で製作する初回。車輪を取り付けるギアボックスを、説明を受けながら(写真上)完成させた。2個のモーターが左右の車輪のそれぞれを、ギアを通して回転させる。全員が予定どおり完成させることができた。残りの時間で、1年をとおして何度も行うことになるはんだ付けの練習を行った(写真中)。ほとんどの人が人生初のはんだ付け、上手にできるようになってきた。

(資料は [こちら](#))

[特別研究生クラス]1階のマイコンコースも3回目(写真下)。無線リモコンカーなど、自分の作るものに合わせて、全員がはんだ付けによるボード上への部品実装までできた。



会場

電気通信大学 創立80周年記念会館3階

内容

工作教室:ヘロンの噴水

水が下に落ちる力を利用するヘロンの噴水。今年はペットボトル、ストロー、チューブ、そして、3本の棒と皿などを用いて製作。まず机に座って、ペットボトルにチューブや噴水口となるストローをつけた。その後は、教室で床に座り込んで、胸までの高さのものを作る(写真上)。3個の板で土台を作り、3本の棒をたて、皿をうまく上にのせて。完成した人から、ちょうど雨があがった外にでて水遊び、いや、実地の勉強。いろいろな高さの噴水ができた(写真中上)。最後に指導のリーダー役の大嶋先生が、噴水となる理由を実演しながら説明(写真中下)。子どもたちは外での水遊びは大好き、いつもの教室後よりも長いこと遊んでいたよう。

(資料は [こちら](#))

[特別研究生クラス]5から10人程度の少人数で土曜や日曜に行われている特研。A3工作コースでは、4,5,6月の3ヶ月かけて作ってきたボンボン船の製作が6月29日(日)にひと段落。黄銅(しんちゅう)製の船を作って蒸気とモーターで動かし遊んで、最後にはヨットにして持ち帰った(写真下)。



会場

電気通信大学 創立80周年記念会館3階

内容

工作教室:ペットボトルロケットを作るとばそう



会場

電気通信大学 創立80周年記念会館3階

内容

発明クラブ:ステアリングカーの製作 その4

7月12日のつづき。ステアリングカーの製作の最終回。前回までは、電線のつながったリモコンでステアリングカーを操作。今回は、この電線付きリモコンを取り外して、簡単なコンピュータのせた追加の基板を製作して取り付け。スイッチを入れると走り出し、壁にぶつくと自分で向きを変えてまた走る。班対抗のゲームを行い、優勝した班の6人を表彰した。

(資料は [こちら](#))

会場

電気通信大学 創立80周年記念会館3階

内容

発明クラブ:光オルゴールの製作 その1

2学期からは光オルゴール。久野(きゅうの)先生の説明でスタート。楽譜に合わせて白黒に作った紙テープをセンサーが読み取って2オクターブの音を出す。3ヶ月かけて本体のオルゴールを完成させる予定。今日は、まず部品を受け取り中身のチェック。ネジやナットやワッシャーなど、確認もひと苦勞。次に、スピーカー、電池ボックス、およびスイッチを箱にとりつけて、それらに電線をはんだ付け。最後に、紙テープをおくっていくハンドル部分を組み立てるところまで。



会場

電気通信大学 創立80周年記念会館3階およびコミュニケーションパーク

内容

工作教室:ヘリコプターを作ろう

木の板、プロペラ、割り箸、ゴムひもなどを使ってヘリコプターを作った。その後、晴天のもと滞空時間を競う競技会。8秒から10秒の好記録の10名が表彰を受けた。

ジョン・ホール先生(2005年ノーベル物理学賞、アメリカ・コロラド大学、電通大特別栄誉教授)およびリンディ夫人が見学に訪れてくださった。子供たちが楽しんで活動している様子や、何ヶ月もかけて工作物を完成させる発明クラブの取り組みに、高い評価をいただいた。



会場

電気通信大学 創立80周年記念会館3階

内容

発明クラブ:光オルゴールの製作 その7

9月から製作を開始して完成させたオルゴールの発表会。内海先生司会のもと、全員が自分で選んだ曲を、自分で準備した楽譜紙テープを用いて皆の前で1曲演奏した。半分近くの人が午前中から来て、オルゴールの最終チェックと演奏練習を行っていた。また、2人1組で合奏を行ってくれたメンバーや、自分でパソコンを使って長い曲のテープを楽譜から作った上級生もいた。

オルゴールやテープの出来栄と、演奏の滑らかさなどを採点し、上位10人を表彰。今年度の光オルゴール制作も無事に終了した。



会場

電気通信大学 創立80周年記念会館3階

内容

工作教室:エアクッション艇の製作

10期生最後の工作。プロペラで浮いて動くエアクッション艇を製作した。

本日の講師のリーダーは樋口先生。まず風を下と後ろにうまく送るための風洞を牛乳パックで製作。今年は特にこの部分を去年のものよりバージョンアップしている。これをポリエチレン袋につけ、さらにモーター、プロペラ、電池などを取り付けて完成。完成後は競技会を実施。廊下にコースを作ってタイムトライアルを行い、10位までを表彰した。1位は8.89秒、以下、2位8.94秒、3位9.08秒と続いた。



会場

電気通信大学 創立80周年記念会館3階 および 大学生協食堂

内容

修了式

10期生も1年間の活動を終え、修了式を迎えた。第1部は、いつも工作をやっている80周年記念会館3階で、修了式を行った。ひとりひとりに修了証を授与した後、調布市および電通大同窓会(目黒会)の来賓からも挨拶をいただいた。最後に、指導員たち、および、保護者の方々と一緒に写真撮影を行った。

第2部は2階に移動した。特研生たちおよびその指導員が、修了生向けに2年目の特研活動について紹介してくれた。

第3部は、大学生協食堂で懇親会を行った。クラブメンバー、その保護者、指導員たちがスピーチを行った。先ほど撮影した修了式の写真ができてあがってきてみなに手渡しして、本年度の電通大発明クラブを修了した。



ながれと遊ぶコンテスト 2014

宮崎 武*, 田口 智清†, 高橋 直也‡

平成 26 年 11 月 22 日（土）に小中学校生向けのイベント「ながれと遊ぶコンテスト 2014」を開催いたしました。この催しは紙飛行機を工作して飛行性能を競う「紙飛行機大会」と揚力発生の仕組みをわかりやすく解説する「流体力学実験」を組み合わせたもので、日本流体力学会が主催し毎年行っています。飛行機だけでなく社会の様々なところで役に立っている流体力学への関心を高めてもらうのが目的です。実施担当は電気通信大学、東京電機大学、首都大学東京で、社団法人発明協会との共催の形をとりました。おかげで 38 名の小学生（男子 28 名、女子 10 名）の参加がありました。

午前 10 時に電気通信大学創立 80 周年記念会館の一室に集まった参加者には「2014 年型紙飛行機キット」が配られました。キットの中身は木製の胴体、主翼などをあらかじめ実寸で印刷したケント紙、それから紙飛行機を飛ばすために使うゴムです。機体設計は例年通り澤田拓名人*1です。今年の機体は一昨年前のものを踏襲し、変更は最小限に抑えられました（図 1）。これは昨年大幅な変更を行ったのにも関わらず記録が伸び悩んだため、再チャレンジの意味を込めたためです。胴体はバルサ材で、昨年同様大学設置のレーザー加工機を用いることで準備時間の短縮と精度の確保を両立しました。子供たちの作業は配布されたケント紙からハサミを使って翼を切りだし、接着剤で胴体に固定していくことです。その際の工作精度の確保は例年の課題です。事前打ち合わせのときには工作精度を向上させるた



図 1 2014 年型紙飛行機。

め、主翼などの基本パーツをあらかじめ切り出しておくことも検討しましたが、工作の実感や楽しさが減ることを危惧し、結局木材以外の切り出しは自分たちでやってもらうことにしました。子供たちはまず澤田名人から切り出し方や接着の仕方、また上反角やキャンバーの付け方について説明をうけ、その後、名人や学生ボランティアに手伝ってもらいながら工作しました（図 2）。

紙飛行機が組み上がった後、接着剤が完全に乾燥するまでの間、首都大学東京の高木正平先生に、「飛行機はなぜ飛べるの？」と題して揚力の発生するしくみについて解説をして頂きました。解説は様々な大きさの飛行機の紹介から始まり、続いて飛行機の大きな重量を支える翼の役割に説明が移っていきます。そして翼の単位面積あたりに必要な揚力の大きさを試算したあと、そのような揚力を実際に作り出せることをデモ実験で子供たちの目の前で披露しました（図 3）。また、揚力の発生について解説する一方、ベルヌーイの定理をつかった一見もっともらしい説明の不備も指摘し、子どもたちにとってわかりやすいながらも充実した内容になっていました。

昼休みを挟んで、近隣の調布市立第一小学校の校

* 電気通信大学 知能機械工学専攻，〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

† 電気通信大学 知能機械工学専攻，〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

‡ 東京電機大学 機械工学科，〒120-8551 東京都足立区千住旭町 5 番

*1 武蔵野ペーパープレーンクラブ会長



図2 紙飛行機の工作風景。



図3 小学生の前で揚力の実験をする高木先生。

庭に移動し、作製した紙飛行機による滞空時間コンテストを行いました。このコンテストではゴムを使って飛行機をできるだけ高い位置まで飛ばし、旋回させながら滑空させることで地表到達までの時間の長さを競います。まず、澤田名人による機体の調整の仕方と飛ばし方の説明があり、その後測定を行いました。実は紙飛行機をよく飛ばすためには調整がとても大事な要素です。子供たちは自分であるいは澤田名人に手伝ってもらいながら機体の調整を行い、好記録を目指して紙飛行機を飛ばしました(図4)。今年の滞空時間部門チャンピオンは十川準正君で、記録は11.7秒でした。

最後に校庭から体育館に場所を移し、飛距離を競うコンテストを行いました。体育館のステージ上から体育館の反対側に向かって飛行機を飛ばし、航続距離を競います(図5)。毎年体育館横断を目標としていますが、今年度も体育館横断に成功した飛行



図4 滞空時間コンテストの様子。



図5 滑空距離コンテストの様子。

機は現れませんでした。調整不足で直進できない飛行機が続出したのが理由です。記録は岡澤蒼汰君の18.7mが最長となりました。

閉会式では、各部門上位3名の成績優秀者の表彰と賞品の贈呈が行われ、また、参加者全員に修了証が手渡されました。

今年もイベントを無事に終了することができました。今年の機体はポテンシャルは高いはずでしたが、工作精度の不足と調整不足のためか記録は伸び悩み、昨年のリベンジとまではいきませんでした。ちなみに電気通信大学の知能機械工学科2年生の学生諸君に同じ紙飛行機を作ってもらったところ、滞空時間で25秒という記録となり、機体の完成度の高さを裏付ける結果となりました。

末筆になりますが、コンテスト会場をご提供いただいた調布市立第一小学校、機体製作をサポートして頂いた目黒会に感謝いたします。

中学生職場体験受け入れ事業

「中学生職場体験」は、進路指導と総合的な学習の一環として、地域にあるさまざまな事業所や施設などを活用して、勤労体験を通して労働の意義や職業に対する意識、理解を深め、将来の進路についての関心を高めさせること、社会の一員としての常識、マナーを身に付けさせることを目的として実施されているものである。

職場体験事業の受入れについては、地域貢献事業の一つとして位置づけ、平成17年度から地域・産学官連携推進機構地域貢献部門が担当し、平成21年度からは社会連携センターが窓口となって実施している。

平成26年度は、次の中学校から受け入れた。また、昨年に引き続き特別支援学級（教諭帯同）の生徒も受け入れた。

6月30日～	7月 4日	府中市立府中第九中学校	2年生3名
7月14日～	7月16日	府中市立府中第二中学校	2年生1名、3年生3名
11月19日～	11月21日	東京都立三鷹中等教育学校	2年生3名

受入れは、総務課、財務課、研究協力課、学生課、学術情報課及び基金事務局で行い、また、大学だけでは対応しきれないため、生協にも受け入れていただいた。

業務は、職員の指導の下、資料の整理、パンフレット発送作業、郵便物の仕分け、施錠確認、ポスター作成、図書の返却作業、図書のラベル貼りなどの作業を体験した。生徒達は、真面目に熱心に取り組んでいた。

職場体験終了後には、職場体験のまとめや感想が書かれた礼状を生徒全員からいただいた。

「職場体験を通して、仕事の大切さや、仕事をすることの楽しさ、自分の行動に責任を持つことの大切さを学ぶことができました。」「自分の進路と仕事や職場について考えることができました。」「大学の仕事の意義、仕事の大切さや大変さ、「社会」と「大学」を照らし合わせて一つ一つの仕事の大切さを学びました。」というような感想がありました。

おもちゃの病院

1. 事業開始の概要

おもちゃの病院は、前田隆正氏（元本学監事）をはじめとする本学の卒業生が中心となって、平成15年7月から開催しているもので、単に壊れたおもちゃを修理するのではなく、「子供と一緒にこわれたおもちゃを分解し、一緒におもちゃの動く仕組みを調べ、一緒にそのおもちゃを組み立てて直す。」ことを方針に、毎月、第3土曜日の午後に創立80周年記念会館2階で実施している。

2. 活動状況

平成26年度は、出前を含めると14回開催し、急患も含めると来院者数が219人（前年165人）、おもちゃの数は310個（前年208個）と大盛況であった。予約なしに当日直接来院するケースもあり、時間内で治療できない場合や治療に時間が要するものについては、入院という形で預かって修理を行った。

この他、毎年市内小学校を巡回して開催される「こどもあそび博覧会（9月20日開催）」に参加したほか、今年度は三鷹市・調布市のごみ処理施設である「ふじみ衛生組合」が開催した「ふじみまつり（11月23日開催）」に新たに参加した。しかし、毎年参加している「調布市環境フェア」は雨天で中止となった。

今年度は、昨年度同窓会（目黒会）から東京近郊に在住の同窓生に募集案内をしていただいた結果、スタッフも充実し、毎回、大勢の先生方の参加があり、治療も早く、多くのおもちゃの治療ができたことで、依頼数の増にも対応できたものと思っている。また、スタッフ増により、9月20日のこどもあそび博覧会の際には、おもちゃの病院の定例開催日であったにもかかわらず、大学と2か所に分かれて、診療に当たるなどの対応ができた。

なお、おもちゃの修理の状況は、お預かりして修理中（3月24日現在：74個）のものを除き、88.6%のおもちゃが修理でき、修理不能と診断されたおもちゃが11.4%と驚異的な修理率を誇っており、多くの人から好評を博している。

開催回数	14回（月1回、YDAS（こどもあそび博覧会）・ふじみまつり参加）
来院者数	219人
おもちゃ数	310個
（内 訳）	
修理	209個
修理不能	27個
入院	74個

学生サークル地域貢献活動

学生サークル地域貢献活動は、平成 24 年度に「電通大のお兄さんお姉さんと楽しむ工作教室」と呼んでいたものを、学内での正式名称としたものである。

この活動の趣旨は、地域で人気が高いが要望に応えきれない子供向け理科教室（「調布少年少女発明クラブ」および「工作教室」）を補完すべく、目黒会支援のもとに学生サークルが新たに工作教室を開催するというものである。実際、発明クラブの応募倍率は毎年 8 倍を超え、工作教室も 20 名の一般枠はすぐに埋まるという状況である。発明クラブ、工作教室の指導員と比較すると不慣れではあるが、大学生が個人の得意分野において指導を行う工作教室は大いに存在意義があると期待される。

2 年目となった昨年は、実施時期が混み合うという不都合が生じて 2 サークルしか実施できなかったのだが、今年度は応募団体がなかったため未開催となった。

これまでは、理科教室の補完という意味合いが強かったため文化系サークルに限って募集を行ってきたが、次年度以降は地域貢献により重きを置き、体育会系サークルにも対象を広げる予定となっている。より充実した学生による地域貢献活動に期待したい。

● 習得・知得

1. 公開講座
2. 調布市国際交流協会日本語ボランティア講座
3. いなぎ IC カレッジ・プロフェッサー講座
4. 三鷹ネットワーク大学

公開講座

1. 概要

平成21年4月1日に社会連携センターが設置されたことに伴って、教育担当部署で担っていた公開講座の実施を、本センターが所掌することになった。

また、平成21年度には、翌年度に電気通信学部の改組が予定されていることから、それまで公開講座の専門講座は学科持ち回りで開講していたものを改組に合わせて今後の実施方法等を見直しすべく、社会連携センター運営委員会の下に公開講座検討専門委員会を設置して検討し、新たな方式での講座の開講を平成22年度からスタートさせた。

平成26年5月21日に、センターのこれまでの活動に加えて、本学の特色であるICT技術を活用しての地域貢献活動も見込まれることから、センターの活動を整理し、活動内容毎に担当を明確化し、より集中的、戦略的な活動の展開を図るために、センター内に4つの「室」を設置することとし、その中の「地域学習推進室」が公開講座の検討及び実施を担当することとなった。

2. 平成26年度開講状況

平成26年度は、次の講座を開講した。また、昨年度に引き続き、本学と連携協定を締結している東京都立調布特別支援学校との共同企画による公開講座を開講した。

なお、従来から実施している（財）調布市文化・コミュニティ振興財団主催の「ちょうふ市内・近隣大学等公開講座」は、今年度は大学院情報システム学研究科情報ネットワークシステム学専攻が担当した。

<本学主催講座>

(1) 「調布身の丈起業塾」

- ・講師：社会連携センター客員教授 前田隆正
- ・開講日：第10回 6月7日（土）・6月14日（土）参加者：13名
第11回 10月4日（土）・10月11日（土）参加者：6名
第12回 2月7日（土）・2月14日（土）参加者：11名

(2) 「ジャグリング入門」

- ・講師：情報理工学研究科情報・通信工学専攻 助教 西野順二
- ・開講日：6月19日（木）、6月26日（木）、7月3日（木）
- ・参加者：20名

(3) 子どもと学ぶ科学実験講座

- ・講師：情報理工学研究科先進理工学専攻 助教 牧 昌次郎
サイエンスコーディネーター 金安 渚
理化学研究所研究員 岩野 智
- ・開催日：7月29日（火）参加者26名
8月22日（金）参加者22名

(4) 「東京都立調布特別支援学校との共同企画講座」

○第9回ボランティア養成講座

震災時に障害のある子ども達を守るには・・・④

～IT 技術を使って子供たちを災害から守るには！～

- ・講 師：UD・Consulting.Inc. 代表取締役 柴田 哲史
都立調布特別支援学校長 坊野 美代子
都立特別支援学校 PTA 会長 成田 さとみ
情報理工学研究科総合情報学専攻 准教授 水戸 和幸

・開講日：7月5日（土）

・参加者：35名

○第10回ボランティア養成講座

特別支援学校の子供達とのふれあいと支援

- ・講 師：一般社団法人発達心理ライフ協会代表理事 春日 佳奈
情報理工学研究科総合情報学専攻 准教授 水戸 和幸

・開講日：10月4日（土）

・参加者：12名

(5) 第3回「女性のための起業講座」

- ・講師：社会連携センター 客員教授 前田隆正
- ・開講日：8月9日（土）
- ・参加者：9名

(6) 「UEC コミュニケーションミュージアム特別公開講座 理系の古文書講座」

講師：情報理工学研究科共通教育部 准教授 佐藤賢一

第1回 開講日：10月25日（土） 参加者：20名

第2回 開講日：11月29日（土） 参加者：15名

第3回 開講日：12月20日（土） 参加者：16名

第4回 開講日：1月24日（土） 参加者：16名

第5回 開講日：2月14日（土） 参加者：17名

<(財)調布市文化・コミュニティ振興財団主催・ちょうふ市内・近隣大学等公開講座>

○総合テーマ「情報化社会を読み解く基本技術」

第1回「ネットワーク社会を支えるプロセッサ達」

- ・講 師：情報システム学研究科情報ネットワークシステム学専攻 准教授 入江 英嗣
- ・開講日：9月18日（木）
- ・参加者：65名

第2回「無線LANの通信の仕組み～便利で安全に使うには～」

- ・講 師：情報システム学研究科情報ネットワークシステム学専攻 准教授 大坐畠 智

- ・開講日：9月22日（月）
- ・参加者：78名

1. 調布市国際交流協会日本語ボランティア入門講座指導

[講 師] 池田 裕 (国際交流センター教授)

笠原(竹田) ゆう子 (国際交流センター教授)

[期 間] 2014 年 7 月～2014 年 9 月 毎週木曜日 14:00～16:00 (全 12 回)

[場 所] 総合研究棟 301 マルチメディアホール、総合研究棟 306 講義室
たづくり 12 階大会議室

[講座概要]

調布市国際交流協会日本語ボランティア希望者 30 名を対象に日本語教育及び日本語教授法の基礎知識についての講義と異文化理解のためのワークショップを行った。

2. 調布市国際交流協会日本語ボランティア勉強会指導

[講 師] 池田 裕 (国際交流センター教授)

[期 間]

2014 年 4 月～2014 年 6 月 毎月第 3 木曜 14:00～16:00

2014 年 10 月～2015 年 3 月 毎月第 3 木曜 14:00～16:00

[場 所] 東 2 号館 BP117 室

[講座概要]

調布市国際交流協会所属日本語ボランティア各期約 20 名を対象に、日本語教授法実習と教材分析、授業についてのカンファレンスを行った。

3. 調布市国際交流協会日本語ボランティア日本語教授法フォローアップ講座指導

[講 師] 笠原(竹田) ゆう子 (国際交流センター教授)

[期 間]

2014 年 4 月～2014 年 6 月 毎月第 2 木曜 14:00～16:00

2014 年 10 月～2015 年 3 月 毎月第 2 木曜 14:00～16:00

[場 所] 東 2 号館 BP117 室

[講座概要]

調布市国際交流協会所属日本語ボランティア約 30 名を対象に、入門、初級及び中級レベルの日本語指導について教材分析、教授法に関する講義・ワークショップを行った。

いなぎ I C カレッジ・プロフェッサー講座

1. 概要

「いなぎ I C カレッジ・プロフェッサー講座」は、平成 19 年度より稲城市教育委員会からの要請を受け実施しているものである。

この講座は、「稲城市生涯学習推進計画 “Inagi あいプラン”」に基づき、市民主体で運営する生涯学習の場として、平成 15 年 10 月にスタートした「いなぎ I C カレッジ」の講座の中で、幅広く・深く専門的な知識の追求する場として、より高度な教育内容を「やさしく、誰にでもわかりやすく」を目指して、大学の教員や名誉教授などを講師として新たに開設したものである。

講座は、前期・後期ごとに各 6 回開講する。

2. 平成 26 年度開講状況

平成 26 年度は、本学から次の講座を開講した。

「「倒産 0」の身の丈起業」

- ・開講学期：前期
- ・講師：社会連携センター 客員教授 前田 隆正
- ・開講日：4 月～9 月各月 1 回、全 6 回

三鷹ネットワーク大学との連携

三鷹ネットワーク大学は、三鷹市民への高度な教育・学習機会の提供と、民学産公の協働による研究・開発の推進、教育・研究機関相互の連携及び地域社会への貢献に資することを目的に、各教育・研究機関と三鷹市が共にこの運営に当たっており、本学は、三鷹市と「三鷹ネットワーク大学に関する基本協定書」を平成17年3月18日に締結し、開設時より参加している。

それに基づき、公開講座、企画運営委員会及び「民学産公」協働研究事業の実施について協力している。

1. 平成26年度開講状況

平成26年度は、本学からは次の講座を開講した。

- ①「三鷹身の丈起業塾」第21期
 - ・講師：客員教授 前田 隆正
 - ・開催日：第1回 4月8日（火）、第15回 7月29日（火）
- ②「ホテルの光を科学する先端医療を切り開く技術」
 - ・講師：情報理工学研究科助教 牧 昌次郎
 - ・開催日：7月8日（火）、7月15日（火）
- ③「三鷹身の丈起業塾」第22期
 - ・講師：客員教授 前田 隆正
 - ・開催日：第1回 10月7日（火）、第15回 1月27日（火）
- ④「三鷹身の丈起業塾～SOHOベンチャーカレッジアドバンス講座」
 - ・講師：客員教授 前田 隆正
 - ・開催日：2月21日（土）

2. 平成26年度企画運営委員会

企画運営委員会（委員長前田隆正氏）では「民学産公」協働研究事業を推進している。

観光、食品、健康、娯楽、IT などさまざまな小ビジネス（SOHO）をこれまでに支援してきており、その中には「身の丈起業塾」の卒業生によるものも含まれている。平成26年度の活動は、下記のとおりであった。

（1）プレゼンテーション審査・選考 平成26年6月27日（金）

応募団体から提出済みの予算計画書（最大50万円の補助、ただし同額を自己負担）も参考にして質疑応答を行い、いくつかの項目について委員からのポイントを集計して採択団体が決定された。

（2）中間報告会・交流会 平成26年9月26日（金）

(3) 成果報告会・交流会

平成 27 年 3 月 6 日 (金)

3. 「民学産公」協働研究事業

(1) 採択事業

平成 26 年度「民学産公」協働研究事業として、次の研究事業が採択された。

○「三鷹市域における学生連携を主体とした地域参画型 I C T 利活用に関する研究」

・研究事業代表者：社会連携センター特任教授 永岡 誠

○「災害情報の活用支援システムの開発と導入のための実証実験

・研究事業代表者：情報システム学研究科准教授 山本 佳世子

協働研究事業の概略は、次のとおりである。

(2) 成果報告の概略

○「三鷹市域における学生連携を主体とした地域参画型 I C T 利活用に関する研究」

○「災害情報の活用支援システムの開発と導入のための実証実験」

● 協働活動

1. キャンパス美化活動
2. 花植え活動

キャンパス美化活動を実施

定例の活動として、キャンパス美化活動を二度実施した（1月は雨天中止）。

本活動は曲がり角にさしかかっている。「職員と学生との協働活動に加え、地域自治体や市民を交えた活動」を掲げてきたが、今年度は昨年度（まで）に比べ活動が停滞し、各部署に割り当てられた事務職員の参加で維持された。昨年度はボランティア推進部が企画・実施の中心を担ったが、同推進部は解散、また地域自治体（調布市や近隣自治会）を交えた活動を行うことはできなかった。学生の参加もあまりなく、わずかに、過去2年間、週に1度美化活動を実施している、大学の近くの住民4名の参加が明るいニュースであった。

【第13回キャンパス美化活動（7月12日）】

酷暑の中、40名で大学内外のゴミを収集した。たばこ、ペットボトル、缶、包み紙などが、あちらこちらに見受けられた。

【第14回キャンパス美化活動（11月19日）】

「調布祭の会場を美しく」をテーマに実施した。68名が参加。

花植え事業活動報告書

1. 事業の概要

平成14年9月から12月に、市民を対象とした、まちづくり講座「まち創造塾」が開かれた際、そのまとめとして市民から出された提言の1つに「住みたいまち、花のある調布」というものがあつた。これに対し、この塾に出席していた当時の梶谷誠学長が「是非、大学内に花を植えてほしい」と要望され、実現する運びとなったもので、平成15年6月から、春・秋の2回、花植え作業が行われている。

日常の花壇の手入れは、調布市民ボランティアグループ「調布花・はなの会」の皆さんが行っていただいております。

年2回の花植え作業には、調布花・はな」の皆さん及び本学の学生・教職員の他、平成21年度からは、本学と連携協定を締結している調布特別支援学校の生徒が、本年度からは本学の保育園どんぐりの子供たちも参加している。

2. 活動状況

平成26年度の花植え事業は、例年どおり春・秋の2回実施した。

春の花植え作業では、当初の予定であつた7月11日が台風の影響を考慮して翌週の7月18日に変更して実施した。本部棟玄関前広場の花壇で、福田学長をはじめ、本学学生・教職員など総勢49名が参加し、花・はなの会グループの指導の下、サルビア、ポーチュラカ、日々草など夏から秋に向けて咲く花を植えた。

秋の花植え作業は、調布市長代理の生活文化スポーツ部長、調布特別支援学校の生徒、本学保育園どんぐりの子供達及び本学学生・教職員など総勢60名が参加し、花・はなの会グループの指導の下、冬から春に向けて咲くパンジーとチューリップを植えた。

第1回 7月18日（金）10：00～10：30 参加者：49名

第2回 11月14日（金）10：00～10：30 参加者：60名

● ボランティア活動支援

1. 活動支援事業

ボランティア活動支援事業

1) ボランティア活動マッチングシステム

本学では、平成18年度より Web によるボランティア活動マッチングシステムを運用している。ボランティア活動を希望する学生がこのシステムに登録すると、本センターに届いたボランティア募集情報がメーリングリストを通して配信される。実際に活動を行う場合は、学生がボランティア募集元へ直接問い合わせ、申し込み等を行って活動をスタートする。活動終了後は、報告書を提出するよう勧めており、その報告書に基づいて毎年数名の大学表彰対象者を選定している。

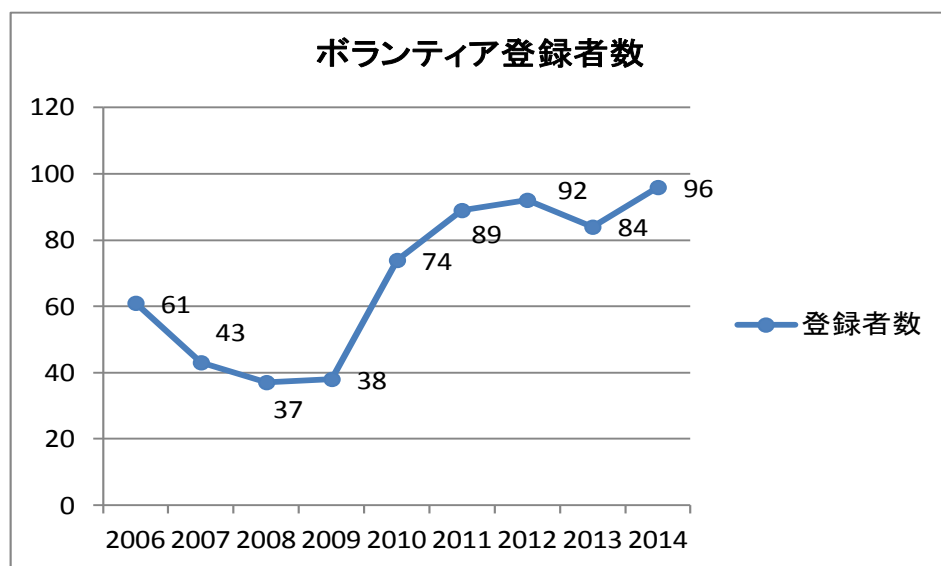
マッチングシステム導入以前は学生課での掲示や特定の研究室への依頼を通して斡旋が行われていたが、教職員の個人的なレベルでの斡旋は重い負担が発生するとともに、量的な限界があった。本システムの導入により、様々な機関（NPO 含む）から寄せられる最新の募集情報を学生に対して展開出来るようになった。また、教員養成課程を履修する学生を支援する教職課程支援室が年々充実し、教職課程に特化したボランティア活動マッチングシステムが数年前から立ち上げられている。現在は、両システムがお互いの長所を生かしつつ併存している。

なお、平成 25 年度にスタートした公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩の「学生教育ボランティア」学生登録システム（八王子を中心とした近隣地区での活動を多数紹介）にもリンクをしていたが、平成 26 年度末の事業休止に伴い学生への報知は停止している。

2) 人数と件数

まず、本センターのボランティア活動マッチングシステムにどれだけの学生が登録しているかについて述べたい。近年は概ね 90 名前後の学生がボランティアへ参加登録している（図 1）。ホームページ改定を機に学外からもボランティア情報の閲覧が可能となったこと、参考情報として過去のボランティア依頼情報を参照できるようになったこと、東日本大震災後にボランティア活動への意識が高まったことなどが要因として挙げられる。

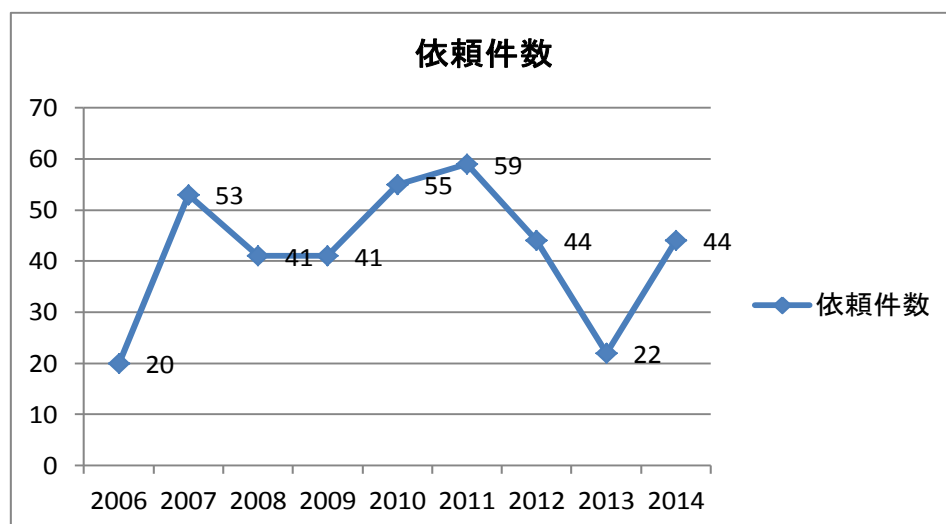
図 1 ボランティア登録者数



一方、ボランティア依頼件数は年度によって増減を繰り返している状況ではあるが、平均して年間に 40 件以上の依頼を受けている（図 2）。章末に、平成 26 年度のボランティア依頼内容をま

とめている（表 1）。このうち、学生が実際に出向いた件数がいくつあるかは十分に把握できていない。

図 2 ボランティア依頼件数



3) 本年度のボランティア活動の全体動向

東日本大震災後に社会のボランティア活動に対する意識が高まったこともあり、本センターに寄せられるボランティア募集は多岐の分野に渡っていた。その後、数年をかけて依頼内容も淘汰されていき、平成 26 年度の内訳をみると全 44 件のうち分野別では学習支援関連が 9 件 (20.5%)、地域別では大学所在地である調布市に拠点を持つ組織・団体からの依頼が同じく 9 件 (20.5%) となっている。依頼数 44 件には、活動期間の異なる同一震災復興プロジェクトが複数含まれているため、それを除くと実質的な学習支援ボランティアの割合は 25% に上る。ネットワーク多摩の学生教育ボランティアにも 10 名を超える学生が登録していた。

この他に、前述の教職課程支援室を介して多くの学生が調布市内の小中学校にて学習支援活動を行っている。調布中学校、調布特別支援学校では定常的に学習支援ボランティアとしての活動を行い、夏には調布北高校にて 2 日間でのべ 14 名の学生が学習ボランティアに参加、科学センターや布田小学校でも毎月活動を行っている。また、2009 年に教育連携協定を締結した調布リソースネットを通して様々な活動が行われている。

このように、ボランティア活動は調布市との連携が強化され、徐々に地元調布市での活動基盤が整いつつある。地域社会に対する貢献活動を志す本センターとしては非常に喜ばしいことである。今後も学内、学外との連携を深めつつ、地域に根差した活動を続けていく所存である。

4) 今後の支援事業に向けて

今年度は本センター内にボランティア推進室が設置され、学内のボランティア関連組織との連携が強化された一方、近年継続して課題となっている学習支援以外のボランティア参加学生の把握については大きな進展がなかった。また、これまで学内で率先して活動してきたボランティア推進部は今年度で解体となるが、中心となって活動していた学生はボランティアコーディネーターを目指しての活動を行うとのことでセンターとしても今後の活動を見守っていきたいと思う。

表 1：平成 26 年度ボランティア活動依頼

区分 A:教育指導補助 B:野外活動等補助員 C:福祉活動 D:講座・集会 E:その他

No.	受付日	団体名	依頼内容	依頼 区分
1	2014/6/3	調布市立第八中学校	土曜学習教室学習支援ボランティア	A
2	2014/6/3	江戸川区教育委員会事務局	江戸川区学校応援団学生ボランティア	A
3	2014/6/3	伊那谷こども村事務局	伊那谷こども村キャンプボランティア募集	B
4	2014/6/3	公益社団法人 学術・文化・産業 ネットワーク多摩	学生教育ボランティア	A
5	2014/6/3	東京都立砂川高等学校通信制課程 進路指導部	学習支援ボランティア(数・理)	A
6	2014/6/3	災害救援ボランティア推進委員会	災害救援ボランティア講座	D
7	2014/6/3	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	復興支援 大学生ボランティア募集 チーム「ながぐつ」プロジェクト	C
8	2014/6/3	神奈川県足柄ふれあいの村	足柄ふれあいの村 足柄サポーター募集	B
9	2014/6/3	神奈川県足柄ふれあいの村	ashigara サポータークラブ & ボランティア研修会	D
10	2014/6/3	調布市国際交流協会	こどものための日本語教室 学生ボランティア募集	A
11	2014/6/3	調布市教育委員会 指導室	調布市学校教育支援 学生ボランティア募集	A
12	2014/6/10	ESD ユネスコ世界会議準備室	ESD ユネスコ世界会議 学生ボランティア	D
13	2014/6/10	東京都立調布特別支援学校 PTA	PTA サマークラブ ボランティア募集	B
14	2014/6/10	市民活動センターたちかわ	夏!体験ボランティア 2014 参加者募集	C
15	2014/6/10	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	復興支援 大学生ボランティア募集 チーム「ながぐつ」プロジェクト	C
16	2014/6/10	北ノ台ミニバスケットボールクラブ	ミニバスケットボールクラブ コーチ募集	B
17	2014/6/24	一般社団法人 ボランティアプラットフォーム	海外ボランティア	D
18	2014/6/27	NPO 法人 ふみ月の会	知的障がい児の宿泊訓練ボランティア募集	C
19	2014/7/15	NPO 法人 ちば里山センター	里山ボランティア養成コース	D
20	2014/7/15	社会福祉法人 八王子市社会福祉協議会	夏休み体験ボランティア活動ボランティア募集	C
21	2014/7/15	調布市国際交流会	夏休み、子どものための日本語教室	A
22	2014/7/15	一般社団法人 キンダー・フィルム	22nd キンダー・フィルム・フェスティバル ボランティアスタッフ募集	D
23	2014/7/25	独立行政法人 国立青少年教育振興機構	国立オリンピック記念青少年総合センター ボランティア募集	C
24	2014/9/19	社会福祉法人 新の会 はあと・ふる・えりあ	知的障がい施設の祭りの補助	C

No.	受付日	団体名	依頼内容	依頼 区分
25	2014/10/16	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	復興支援 大学生ボランティア募集 チーム「ながぐつ」プロジェクト	C
26	2014/10/16	Code for Chofu	調布マッピングパーティの参加者募集	C
27	2014/10/21	日本福祉教育・ボランティア学習学 会	日本福祉教育・ボランティア学習学会 第 20 回とうきょう大会	D
28	2014/10/21	社会福祉法人 日本肢体不自由児協会	第 26 回「雪と遊ぼう;親と子の療育キャンプ」ボランティア リーダー募集	B
29	2014/11/21	伊那谷こども村事務局	伊那谷こども村ウィンターキャンプボランティア募集	B
30	2014/11/21	江戸川区教育委員会事務局	江戸川区学校応援団学生ボランティア	A
31	2014/11/21	東京都立調布特別支援学校	実践研究発表会のご案内	D
32	2014/11/21	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	復興支援 大学生ボランティア募集 チーム「ながぐつ」プロジェクト	C
33	2014/11/21	国際教育交換協議会 (GIEE)	短期海外ボランティア	C
34	2015/1/6	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	復興支援 大学生ボランティア募集 チーム「ながぐつ」プロジェクト 106	C
35	2015/1/6	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	復興支援 大学生ボランティア募集 チーム「ながぐつ」プロジェクト 107	C
36	2015/1/6	独立行政法人 国立青少年教育振 興機構	第 3 回学生ボランティアと支援者が集う 全国研究交流集会参加者募集	D
37	2015/1/27	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	Gakuvo インターンシッププログラムの募集	D
38	2015/1/27	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	復興支援 大学生ボランティア募集 チーム「ながぐつ」プロジェクト 109	C
39	2015/1/27	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	復興支援 大学生ボランティア募集 チーム「ながぐつ」プロジェクト 111	C
40	2015/1/27	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	復興支援 大学生ボランティア募集 チーム「ながぐつ」プロジェクト 112	C
41	2015/2/17	日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)	インドネシアプロジェクト参加者募集	C
42	2015/2/17	荒川区子育て支援課	学びサポートあらかわ 学習支援ボランティア募集	A
43	2015/2/20	調布市国際交流協会	国際交流協会学生ボランティア募集	D
44	2015/3/6	調布市高齢者支援室	調布市見守りサポーター「みまもりさん」養成講座	D

合 計

A : 9 件

B : 6 件

C : 17 件

D : 12 件

E : 0 件

計 44 件

● トピックス

1. 調布特別支援学校との連携
2. 渋谷区教育委員会との連携
3. 西原小学校サイエンスパートナーシップ
プログラム
4. 調布市多方面セクターとの連携・協力
5. 調布市との相互友好協力協定締結
大学 10 周年記念事業の開催

都立調布特別支援学校との連携

情報理工学研究科・総合情報学専攻

准教授 水戸和幸

1. はじめに

本学に隣接する都立調布特別支援学校が 2008 年～2009 年度に東京都教育委員会の「外部の教育資源を活用したしくみづくりモデル事業」の指定を受けたのをきっかけに当校の教諭、PTA、本学の学生および教員、そして地域住民による検討委員会が立ち上げられた。2010 年 4 月から同委員会は「調布特別支援学校リソース・ネット」という組織名となり、当校の児童・生徒の教育活動の充実を目指した活動を展開している。

2. 活動組織：調布特別支援学校リソース・ネット

組織のメンバーは、当校の教員と PTA 役員および卒業生保護者、サポーターとしての地域住民や隣接する調布市立第一小学校学区の地域協議会（いっしょうふれあいネットワーク）、そして本学のボランティア推進部学生（総合情報学科 4 年養老毅暁君、知能機械工学科 4 年梅村昇平君）、卒業生と教員（佐々木啓子教授：教職課程部会、奥浩昭教授：総合文化部会、水戸和幸：総合情報学専攻）である。ほぼ 1 ヶ月に 1 回の委員会を行い、特別支援学校および特別支援教育に関する啓発活動（公開講座）、防災活動、放課後等支援活動を中心とした課題への対応と事業を実施している。

3. 活動内容

平成 26 年度は、東京都教育委員会の助成事業である「子供教室推進事業」を中心に活動を行った。また、例年と同じく啓発活動として公開講座を 2 回、支援活動として地域と連携した総合防災訓練を実施した。活動の詳細は以下の通りである。

3.1. 委員会の開催

1 ヶ月に 1 回のペースで年 11 回の委員会を開催した（8 月は休会）。特別支援学校および特別支援教育に関する理解を深めるための公開講座（ボランティア養成講座）、当校で実施される地域と連携した総合防災訓練および余暇活動である子供教室推進事業等の企画、運営に関して協議した。

3.2. 公開講座

都立調布特別支援学校との共催による公開講座を2回実施した。

(1) 第9回ボランティア養成講座

【テーマ】震災時に障害のある子ども達を守るには・・・④

～IT技術を使って子どもたちを災害から守るには！～

【日時】平成26年7月5日（土）13:30～16:30

【会場】電気通信大学 80周年記念会館3階

【参加人数】35名

【趣旨】東日本大震災時に味の素スタジアム避難所にて避難者とボランティアとを結んだツイッターやFacebookなどのITツールの活用法を知り、効率的な情報発信方法を利用して障害のある子供たちを災害から守る方法について参加者で考える。

【内容】

第一部：講演

- 味の素スタジアム避難所および大島災害ボランティアセンターでの活動とITツールの有効性

講師：柴田哲史氏（UD-Consulting, Inc.代表取締役）

- 震災時に障害のある子供たちや家族、特別支援学校が必要とする支援

講師：坊野美代子氏（都立調布特別支援学校校長）

成田さとみ氏（同校PTA会長）

第二部：グループディスカッション

- IT技術を使って子供たちを災害から守るには！

（司会）電気通信大学准教授水戸和幸



第9回ボランティア養成講座の様子

（柴田氏による講演（左）とグループディスカッション（右））

(2) 第10回ボランティア養成講座

【テーマ】特別支援学校の子ども達とのふれあいと支援

【日時】平成26年10月4日(土) 13:30~16:00

【会場】都立調布特別支援学校プレイルーム

【参加人数】12名

【趣旨】障害をもつ子ども達が地域社会の中で活動し、より安全に豊かな生活を送るためには、地域の理解と協力が必要である。本講座では、余暇活動(つくってとばそう!)に取り組む子ども達の様子を見学しながら、調布特別支援学校に通う子ども達の特質や関わり方などを理解する。

【内容】

- ・ 「つくってとばそう!」の見学
(紙コップ等を使った飛行機工作等の様子を見学)
- ・ 都立調布特別支援学校の紹介(DVD)
- ・ 障がいのある子ども達の特質や関わり方のお話
講師: 春日佳奈氏(発達心理ライフケア協会)
- ・ 余暇活動支援, 防災ボランティア, 見守りボランティア等の紹介
(司会) 電気通信大学准教授水戸和幸

3.3. 子供教室推進事業

今年度より東京都教育委員会の助成事業である「子供教室推進事業」として4回のイベントを企画・運営した。本学からも教職員および学生がスタッフとし、企画運営に協力した。

3.3.1. つくって、とばそう!

日時: 平成26年10月14日(土) 13:30~15:00

場所: 都立調布特別支援学校会議室、体育館

参加人数: 24名(8家族+PTA+ボランティア)

内容: 紙コップ飛行機の親子での作成と体育館で飛行記録会

3.3.2. ダンス&ジャグリング

日時: 平成26年10月25日(土) 13:30~15:00

場所: 都立調布特別支援学校 体育館

参加人数: 102名(ボランティア, 出演者含む, 児童・生徒は35名)

内容: 子ども達とボランティアが一緒になって体操、ゲームなどを楽しむ



ダンス&ジャグリングの様子

(電通大ばさーじゅによるジャグリング (左) とボール送りゲーム (右))

3.3.3. 学園祭見学ツアー

日時：2014 年 11 月 23 日（日）11:00～13:00

場所：電気通信大学

参加人数：51 名（児童・生徒 14 名、サポーター10 名、家族 27 名）

内容： サポーター（ボランティア）と児童・生徒が一緒になり、電気通信大学学園祭（調布祭）での買い物体験や催し物を楽しむ。

3.3.4. 音楽を楽しもう！

日時：2015 年 2 月 14 日（土）13:00～15:00

場所：都立調布特別支援学校 体育館

参加人数：58 名（児童・生徒および保護者）

内容：地域のジャズバンド、保護者や先生方による音楽グループの演奏を楽しむ。

3.4. 総合防災訓練の防災ボランティア

9 月 24 日（水）、12 月 25 日（木）に地域と連携した総合防災訓練を実施した。本学からも教職員および学生が災害ボランティアとして参加し、炊き出し訓練、簡易トイレ設営訓練、帰宅困難者支援ステーション設置訓練、福祉避難所設営訓練を行った。



調布特別支援学校での総合防災訓練の様子
(非常食炊き出し訓練（左）、福祉避難所設営訓練（右）に協力)

渋谷区教育委員会との連携

渋谷区教育委員会と本学は、平成21 年7 月に教育連携協定を締結した。当時のプレス発表には次のように書かれている。

渋谷区と電気通信大学は教育委員会の事業である小・中学生技術センターへの講師派遣等ですでに協力関係にあるが、さらに児童、生徒の科学的思考やものづくりへの意欲を育てるためのプログラムの提供、また楽しい実験方法の提供等教員に対する支援も期待できる。

電気通信大学では、大学が持つさまざまな資源を通して社会に貢献する地域貢献部門を、この4 月に「社会連携センター」として再出発させた。これまでの多摩地区の自治体との連携に加え、今回2 3 区では初めて渋谷区との初等中等教育支援における連携が始まる。

それに基づき、こども科学センターハチラボでの出前講座開催やサイエンスフェスタへの参加を行なってきた。

平成26 年度は、渋谷区教育委員会側として、「こども科学センター・ハチラボ運営委員会」の休止、こども科学センターの来年度以降の見直しなどを行う旨説明があり、また、本学側としても、社会連携センター長の交代もあったため、具体的な連携事業は休止し、来年度以降における実施について検討を進めた。

平成 26 年度 渋谷区立西原小学校理科クラブ

サイエンス・パートナー・シップ・プログラム (SPP)

ロボットに生かされている先端科学技術を学ぶ
～光センサープログラミングカーの製作を通して～

指導者：国立大学法人電気通信大学 社会連携センター

センター長 宮寄 武 教授

知能機械工学科 金森 哉吏 准教授

客員教授 竹内幸一・吉川光子

宮寄 武研究室 学生の皆さん

西原小学校理科クラブ担当教諭・理科講師、科学ボランティアの皆さん

延べ講座日数	6 日	事前打ち合わせ 事前実技研修 後片付け・SPP への報告書	5 日
延べ受講者数 4 年～6 年生	26 人×6 = 136 人	延べ指導者数 延べ補助学生・科学ボランティア数	52 人 27 人

【主な活動内容】

敬称略

6/12	金	宮寄・竹内・吉川 西原小関係者	①SPP 事業の説明 ②電気通信大学担当者の紹介 ③西原小学校での講座計画について協議
7/29	火	宮寄・竹内・吉川 西原小関係者	実際にロボットを製作。指導上の手順、準備、留意点などについて指導者が研修する。
10/17	金	竹内・吉川 西原小指導者	ロボットについて調べたことを発表する。ロボットの仕組みに大切なセンサーやマイコンの働きを知る。
11/21	金	宮寄・吉川・学生 6 名、 西原小指導者他	はんだ付けの練習をする。やけどなどの危険防止について考える。 ※やけどなどの対応について事前に指導。
1/16	金	宮寄・竹内・吉川・ 西原小指導者他	製作する光プログラミングカーの各パーツを確認する。本体のメカのはんだ付けをする。
1 /30	金	竹内・吉川 西原小指導者 科学ボランティア	・本体を組み立てる。製作に必要な工具の使用法に慣れる。 ・抵抗、半固定抵抗、マイコン、センサーなどの働きを知る。 ・LED の回路や極について考える。
2 /13	金	竹内・吉川 西原小指導者他	本体メカの組み立てを完了。光プログラミングカーを走らせる。プログラミング方法について学ぶ。
2/27	金	宮寄・金森・竹内 吉川・西原小指導者 科学ボランティア	・プログラミングの方法を体験し車の動きを変える。ロボットの仕組みについてロボット（知能機械工学）・ロボット工学の専門の先生の話聞く。6 回の活動を振り返る。

◆事後処理：児童のアンケートのまとめ ・SPP への報告書作成（学校担当者と相談）

◆はんだごてなど使用する道具の搬入、片付け、搬出 ◆児童ワークシートの作成 吉川・担当

1. 企画のねらい・ねらいを達成するために留意・工夫したこと、その効果など

【SPP への報告書より：西原小学校担当者作成】

A：連絡先の確保、協力体制の充実のための留意・工夫した点

- ・西原小学校の担当者と電気通信大学の教員とで連絡を取り合い、事前の打ち合わせを密に行いながら計画と講座を進めた。
- ・当日は、専門知識をもつ電気通信大学の教授と児童の指導に慣れている小学校教員が、それぞれの特性を生かすことができる分担にした。

B：児童生徒が科学技術、理科を学ぶことの意義や有用性を実感するために留意・工夫した点

- ・「話を聞くだけ」「与えられた教材を作るだけ」という思いをもつことのないよう、主体的に取り組みたいという意思をもたせるよう工夫をした。走る車を見て、気付いたことを伝え合うことで興味関心を高めたり、車の作り方を助言し合ったり話し合ったりしながら活動することで、主体性をもって活動ができた。そうした学習により、複雑な回路の仕組みや、センサーの働きなどを生きた知識として得ることができ、またその有用性を実感することができた。

C：児童生徒等に考えさせ、意見等を引出すために留意・工夫した点

(問題解決するための実験方法を考えさせる活動や観察・実験の結果や提示されたデータに基づいて考察させる活動など)

- ・事前に作製した様々なタイプのライントレースカーを見せることで、「なぜ線の上を走るの」「どうして机の端まで行くとちゃんと止まるの」「なぜ見た目は同じなのに走り方が違う車がいるの」といった疑問をもたせることから始めた。そうした疑問の答えはあえて教えず、トレースカー作製の手順の中で自ら答えを発見していくことができ、ロボットへの見識を深めることができた。

D：児童生徒等がまとめ、表現する活動等について留意・工夫した点

(ディスカッションで多様な意見を発表させるための工夫や、科学的根拠を明確にしてプレゼンテーション・レポート作成をさせる活動など)

- ・自分でプログラミングした車を発表する際は、工夫したところや、その理由などをあらかじめまとめさせ、走らせる実演をしながら発表を行った。それぞれの児童が互いの考えを認め合い、大きな拍手をし合う姿が立派だった。

2. 講座実施による成果（講座を実施することによって、受講者にみられた成果）

【西原小学校の教員から】

- ・ロボットの感覚器官であるセンサーの働きを理解することができた。
- ・人間でいう脳の働きにあたるコンピューターでの役割を理解できた。
- ・プログラミングという言葉の意味やその方法の一部を理解することができた。
- ・ロボットに生かされている先端科学技術の素晴らしさ・便利さに気付くことができた。
- ・科学を学ぶ楽しさを味わうことができた。
- ・今の子供たちには馴染みの無い、ハンダ付けの方法を理解し、その技能を身に付けることができた。
- ・既習事項をもとにしながら、回路についての知識を深めていくことができた。
- ・友達との学び合いの中で、お互いの考えを認め合おうとする姿勢を育てることができた。
- ・将来科学者になりたい等、自身の将来と理科に関わらせていきたいという思いを多くの児童がもつことができた。

【電気通信大学の教員から】

- ・渋谷区と電気通信大学は教育提携している。電気通信大学には総合情報学、情報・通信工学、知能機械工学、先進工学などの専門性を備えた専攻・学科がありロボット工学に関する実績とノウハウをもっている。電気通信大学の指導を受けて、子供たちが大好きなロボット製作を通し、日本の科学技術の素晴らしさ、未来の科学者への夢や工学への好奇心を育むことができたと考える。

3. 児童の感想

〈6時間の活動で楽しかったこと〉

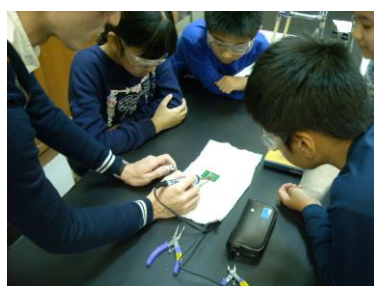
- ・はんだ付けと形が完成して走らせることができたこと。 3人
- ・組み立てるとき 6人
- ・プログラミング 3人
- ・ロボット作り
- ・想像以上に楽しかった。
- ・普段触ることができないような機械に触れて嬉しかった。
- ・プログラミングは難しかったけど、うまく車が走ったので嬉しかった。
- ・またやりたい。
- ・もっと難しい車もつくってみたい。
- ・他のプログラミングもやってみたい。
- ・ハンダ付けが楽しかった。
- ・車が走った瞬間は本当に嬉しかった。
- ・友達のプログラミングがすごかった。
- ・プログラミングについて更に詳しく調べてみたくなった。 3人
- ・いつか大人になったらマイコンなどの機械をつくってみたい。

〈難しかったり苦労したところ〉

- ・黒い線に沿って走らせること。
- ・マイコンを入れるところ。
- ・はんだづけ 6人
- ・ロボットを組み立てているとき
- ・細かい部品がたくさんあったこと。
- ・うまく動かすにはどうするか考えること。
- ・とちゅうで、プログラム通りに動かなかったこと。

〈ロボットのことで学んだこと・もっと知りたいこと〉

- ・やり方を1つでも間違えると、全部がだめになってしまうこと。
- ・ロボットはどれくらい種類があるのか知りたい。 2人
- ・プログラミングのこと。プログラミングの入れ方を知りたい。 9人
- ・完成するまでには、いろいろな仕組みを考えないといけないことを学んだ。



～子供の自由な発想で今や未来の役に立つロボットを考えてみよう～

① 君たちの知っているロボットをあげてみよう。

- ・ドラえもん ・おそうじロボット ・ダイソン ・犬型ロボット ・アトム ・アシモ
- ・医りょう用ロボット ・ルンバ ・ペッパー ・工場によくあるロボット ・鉄人28号

② あなたがあつたら良いなとおもうロボットは何か。いくつかあげてみよう。

- ・家族が留守のとき、しっかり留守番をしてくれるロボット
- ・ペットの世話をしてくれるロボット
- ・アンドロイド
- ・行きたい目的地に空を飛んで連れていってくれるロボット
- ・いっしょに生活できるロボット
- ・サッカーの相手になってくれるロボット
- ・人と同じように感情がもてるロボット

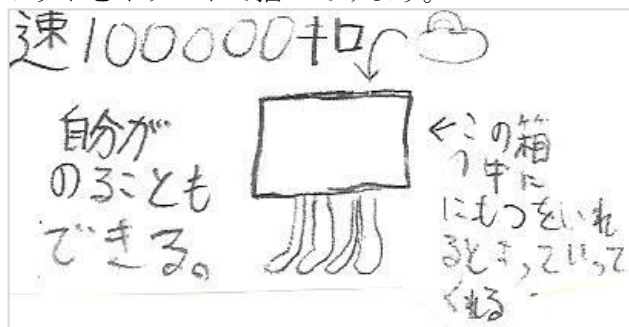
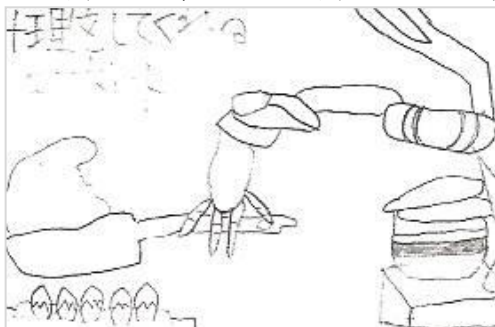
③ こんなものもロボットかなと思うものを書いてみよう

- ・せんたくき ・車を作る機械(ロボット) ・ルンバ ・炊飯器 ・冷蔵庫
- ・スマホ ・薄型電子黒板 ・ピノキオ ・パソコン
- ・イツアスモールワールドの人形

④ 人や動物や地球に役立つロボットのアイデアを書いてみよう。

- ・病弱の動物を乗けて運んだり、一緒にいてあげたりしてあげるロボット。
- ・お年寄りをサポートするロボット。
- ・町にAEDのように置いてあって、倒れている人を見つけた際に、とびらを開けるとロボットが入っていて、心臓マッサージをしてくれるロボット。
- ・カメラが付いていて、下の状況が分かるロボット。
- ・CO₂を出さずにごみ処理してくれるロボット
- ・二酸化炭素を吸ってくれるロボット
- ・1人でいるとき、気分をハッピーにしてくれるロボット
- ・ふわふわ動物ロボット
- ・手術が完璧にできるロボット
- ・海水を飲み水に変えてくれるロボット
- ・被災地の復興に役立つロボット

⑤ 一つでも良いから、あつたら良いなとおもうロボットをイラストで描いてみよう。



調布市多方面セクターとの連携

共通教育部 教授 佐々木啓子

1. 調布市科学センター講座：電通大生ボランティア

(1) 開講式と講座での補助ボランティア

調布市科学センターでは市内の小学生を対象として毎月1回科学講座が開講されている。会場は調布市立布田小学校理科室であるが多摩川河川敷での野外観察や国立科学博物館見学なども盛り込まれている。



調布市立科学センターより写真提供

毎年多くの受講希望者のなかから選ばれた小学5，6年生の児童が希望の講座を受講する。電通大の学生が調布市教育センターのボランティア窓口を通じて参加したことは過去にもあったが、このところ科学センター事務局と本学の教職課程支援室が連携して、各講座の指導補助の学生ボランティアを派遣している。一昨年度より、開講式や閉講式にも学生がボランティアとして会場準備や児童たちの誘導などに活躍をしている。

(2) 電通大主催の講座：「電気工作Ⅱ：ロボットを作ろう」(12月)

本講座は4年前から講座に盛り込まれ、電通大が企画および運営を担当し、子どもたちには一番の人気講座となっている。今年で4世代目となる床ふきロボットは「ワイパーくん4号」と名付けた。知能機械工学専攻の田中一男研究室の協力を得て「魅力ある大学院教育イニシアティブメカインフォマティクスカデット教育」プログラムの一環として実施されている。

知能機械工学専攻の大学院生が作成した床ふきロボットの作成マニュアルを見ながら、

基板へのハンダ付けを学生ボランティアの補助のもとで全児童が挑戦した。ハンダづけは初めてという児童がほとんどだが、1テーブル3名の児童に学生1名が付いて丁寧に指導をしている。学生とロボットを作成することは、児童たちにとって良い教育効果があると高く評価されている。また、参加児童やその保護者からも好評を博している。



ハンダづけは難しい



電通大の学生が丁寧に指導

当日は、科学講座の開始時に講座申し込みをした調布市内の児童 48 名が参加し、学生たちが準備した電子工作の部品や工具を使って、全員がロボットを完成させることができた。完成後、児童らは自らの手で実際にロボットを動かし、歓声を上げていた。



「床拭きロボット ワイパーくん4号」完成しました。

2. 東京都立調布北高等学校との連携

東京都立調布北高等学校とは、平成 20 年 4 月 1 日「授業の聴講により、大学教育の内容の理解を深め、生徒自らの進路決定への取り組みの促進に協力する」ことを目的とし、「高等学校生徒を対象とした公開講座」に関する協定書を結んでいた。



東京都立調布北高等学校より写真提供



東京都立調布北高等学校より写真提供

平成 25 年 3 月 21 日にはさらに「高大連携教育研究協定書」を結び、高校生の科学技術や理工系学問分野への関心や知的好奇心を高め、将来の有意な人材を育成 することに資するため、相互の理解と教育研究交流を深めることでより一層の連携を促進することとなった。平成 26 年度は、調布北高等学校に学習ガイダンス会場を提供、高校 1 年生を対象に公開授業を実施する等、積極的に連携をとった。さらには、平成 27 年 3 月 26 日、27 日には、「春季講習サポート・ティチャー」のボランティアについて、本学の学生を対象に募集があった。これは自ら学ぶ意欲のある生徒のために、毎年春期講習を実施しており、今年度は、生徒の質問に答えるための「サポート・ティーチャー」としてボランティアを募集したのであった。この要請に対して教職課程支援室では、将来、教職に就く希望を持っている教職課程の学生および大学院生に対して教職メーリング・リストにて情報を配信したところ 7 名の学生が応募したので、調布北高校に紹介をした。実際のボランティアの様子は以下の写真にみることができる。



東京都立調布北高等学校より写真提供



東京都立調布北高等学校より写真提供

3. 調布市立調布中学校など市内の中学校の補習授業補助ボランティア

6年前より調布市立調布中学校からの依頼を受けて、教職課程の学生たちが、定期試験前や夏休みに補習授業の指導補助のボランティアに参加している。毎学期2回、年に6回の補習授業に約10名ずつ参加、通年で約60名の学生がボランティアで数学、理科、英語などの授業を指導した。調布中学校では参加する中学生の数も次第に増えて効果をあげているということである。さらに理科実験の補助ボランティアも計画中である。

教職課程支援室との連携では現在のところ調布中学校のみであるが、他の調布市立の中学校にも複数の学生がボランティアに参加していることが確認されている。

4. 調布市の諸団体と連携して活動

この他、調布市教育委員会が募集する市内の特別支援学級の生徒を対象とする土曜日の行事「遊ing」に参加。また、教職の学生を中心として、調布市あるいは東京都教育庁が募集する中学校、高等学校の学習補助ボランティアに応募して参加している。

調布市との相互友好協力協定締結大学10周年記念事業の開催について

平成15年に電気通信大学と協定を締結して10年が経過し、その間7つの大学と協定を締結し各種連携事業を実施してきました。

このたび、10周年を記念して記念事業が企画されました。

今回の記念事業は、締結大学の学生により実行委員会が組織され、学生たちの自由闊達な発想により企画され、次のような事業が開催されました。



ポスターデザイン 鳥居真之介

協定締結大学 電気通信大学、明治大学、桐朋学園大学、白百合女子大学
東京外国語大学、東京慈恵会医科大学、ルーテル学院大学

日 時 平成26年10月5日(日) 12時30分~16時50分

場 所 調布市文化会館たづくり11階・12階

実施内容

【12階 大会議場】

1. オープニングセレモニー
 - (1) 弦楽四重奏 (桐朋学園大学)
 - (2) 各大学の学長によるビデオメッセージ
2. 国際理解講演会 (ルーテル学院大学)
3. 語劇 (東京外国語大学)
4. クイズ大会

【11階】

1. 全体イベント
(スタンプラリー、モザイクアート)



2. 各大学のイベント

電気通信大学・・・体感！インタラクティブゲーム（ぱくぱくゲーム）

明治大学・・・ワークショップだるま絵付け

白百合女子大学・・・Let's speak English & French

東京外国語大学・・・世界の工作体験

東京慈恵会医科大学・・・かんたん健康相談



来場者数 約 350 人

本学実行委員

村江 優奈（副委員長） 総合情報学科 2 年

竹下颯太郎 情報・通信工学科 2 年

野田 雄樹 知能機械工学科 2 年



各大学の実行委員の皆さん